

祖父への「ありがとう」

いつも祖父は、にこにこの笑顔で待ち合わせ場所にやってくる。私は祖父に会うと、心の奥のバネが、ピョン、と弾けるような気持ちになる。小さかったときは、このバネの動きに合わせてように体が自然に動いて、よく祖父に抱きついていった。身長が伸びた今は、さすがにそれはできないけれど、バネの力はおとろえていない。その瞬発力は足に宿って、私は一目散に祖父に駆け寄る。祖父が毎回、

「また足が速くなったなあ。」と大げさに驚いてくれるのが嬉しくてたまらない。その驚いた顔が見たくて、私はいつも全力で祖父のもとへ駆け寄っていた。

祖父は私たちの家から車で一時間ほど離れた場所に住んでいる。互いの家を行き来するのは時間がかかるので、それぞれ家の中間地点で待ち合わせをして会っている。私たちは海ぞいを散歩したり、時はおやつを食べたりしながら、たくさんおしゃべりをする。最近観た映画の話題も、友達の間で流行していることも。心に引つかかっていた学校の失敗ですら、祖父に話すと、もう大丈夫、と思えるから不思議だ。祖父は私のどんなささいな話でも、うんうんと聞いてくれる。その姿を見ていると、私は自分の心のひもがふわっとゆるむのを感じる。胸の奥のためこんでいたモヤモヤが、ゆっくりと流れ出ていく。気持ちが軽くなるってこういうことなんだ、と、私

は祖父の笑顔を見ながら実感する。それと同時に最近、心にふたをすることが多くなったとも感じる。周りの目を気にして、自分らしくふるまえない場面が増えてきたのだ。この悩みを相談すると、祖父は

「成長している証だよ。」

と言った。そして、静かに教えてくれた。悩んだり迷ったりしながら、自分らしさを探す時が来たということ。それは誰にでもやって来ること。そして、自分を見つめる良い機会だということ。じつと聞いている私に、祖父は笑って言った。「彩ちゃんのお母さんも、この時期は悩んでいたよ。でも今は、笑っちゃうほど元気でしよう。だから彩ちゃんも大丈夫。じいじが話を聞くから、安心して今を楽しんでね。」

私は「楽しむ」という言葉に驚いた。このモヤモヤを楽しむなんて、思いつきもしなかった。祖父と話していると、一人では気づけなかった新しい視点を持つことができる。よし、やってみようと思つた。もしつまずいても、祖父がそばにいてくれる。祖父に話を聞いてもらえるこのひとときが、私を強くしてくれているんだと実感した。

今私は、祖父への感謝をどう表そうか考えている。まずは、私がいっかりと成長しよう。そして、その様子を祖父に見てもらおう。これこそが最大の「ありがとう」になると信じて、私はこれからも祖父とおしゃべりを楽しみたいと思う。

安田 彩乃